広報いずみ

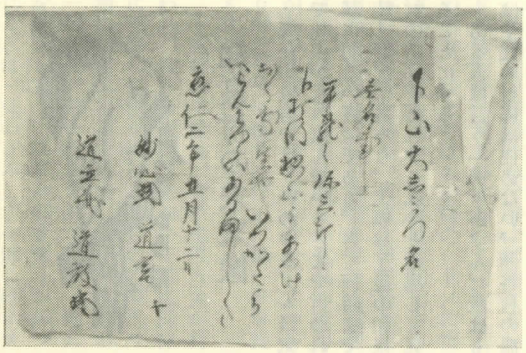
発行所
福井県大野郡
和泉村

五百年も前の証文

下山、清水氏宅より発見

村史編さん委員小葉田先生一行の第一回調査も順調にすすみ、殆んどの委員が、それぞれ担当部門別に資料の収集にとりかかっています。委員の殆んどの先生方は、過去において、別の立場で、本村を訪れておられ、今度の調査に大変役立つているようです。

各部落の皆さん、特に老人の方々にはいろいろ、お聞きしたり、ご案内をおねがいしましたが、更に十月頃にも第二回調査に来村されることになつておりますので、ご協力下さいますようお願いします。



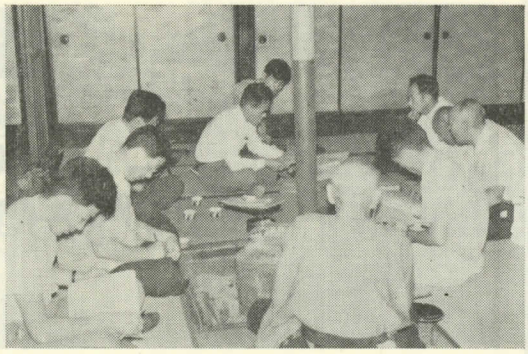
特におねがいします。

なお、下山岡畑の清水一英氏宅から習字の手本や寺小屋の教科書、その他反古類の中から五〇〇年（正確には四九七年）前の証文がでてきた。

この文書は、下打波の惣山がもつていた下山のシミズ名（みよう）を、平蔵の弥三郎へ預けた預証文である。

「シミズ名」というのは、「名田」（みようでん）の名前で、「名」は、領主が「年貢課役をとりたてる単位」であり、その持主を「名主」（みようしゅ）といつて、今の「地主」のようなものである。

写真上は、下山清水氏宅から発見の証文、左は、後野部落での聞きとり調査の一コマ。



九月二十七日投票

村議会議員選挙（定数は十四名）

和泉村議会議員選挙は、いよいよ九月二十七日投票、九月二十日告示と決定しました。

主な日程は、次のとおりです。

和泉村議会議員一般選挙事務日程

九月二十日　選挙期日の告示
不在者投票受付開始（九月二十六日まで）
開票立会人届出受付開始（九月二十四日まで）
九月二十二日　補充選挙人名簿縦覧開始（九月二十三日まで）
補充選挙人名簿異議申出受付開始（九月二十三日まで）
九月二十三日　立候補届出最終日
九月二十四日　補充選挙人名簿異議申出決定期限（投票所入場券配布完了）
九月二十五日　補充選挙人名簿確定
九月二十六日　不在者投票最終日
九月二十七日　選挙期日（投票日）
午後八時から開票

注、補充選挙人名簿の登録申出は、九月十九日までに。

今月の目標

今年もまた台風のシーズンとなりました。

1. 毎年の経験を生かして台風対策には充分な準備をして置きましょう。
1. 平素より台風に対しての訓練をして予備知識を得て置きましょう。
1. お互に協力し合つて被害を最少限度に止め気の毒な人の出ない様にしましょう。

下山分館で合同学級開講式

八月十二日午後八時より下山小学校に於て、成人、婦人、青年の各学級の合同開講式を行つた。従来とも、これに類した学級行事は行つていたが、とかく統制がなかつたのでP・T・A等が主唱して、計画的に各学級を開講することになつた。当日は、村公民館長を交え部落づくり年間計画等につき夜のふけるのも忘れて熱心に研究し合つた

今年の県の公民館活動の重点の一つに分館活動があげられている。先月は大納分館の開講があり、こうした分館の活動が自発的に始められることは誠にうれしいことである。

人のうごき

（七月分）

【出生】

東市布　宮下　清美　勝美長女
持穴　深谷　雅彦　昌義長男
伊勢　福島紀美子　慶松長女
上大納　成田　聡　豊三郎長男

【婚姻】

○朝日　土居　道彦
〃　村上　輝子
○上大納　谷村美千代
〃　岡田　満
○大谷　関　利男
岐阜県郡上郡高鷲村　前畑　秋子
○上大納　相馬　富夫
〃　福田　道子
○後野　三島　靖治
大野市横　中谷　一美
○大谷　池尾　政吉
新潟県村上市　小坂　トキ
○大谷　小沢　周弘

（三面につづく）

○広報は、家族みんなで読みましょう。

和泉村の未来像

現在和泉村では、いわゆるダム景気で札束が乱れ飛んでいるとまで言われ誠に明るい表情である。さて何時まで続く好況であろう。工事終了後の和泉村の将来をあれやこれやと推測して見ることにする。

ある人は言う「ダムがすんだ後はもはや此の村には住めない、西谷村の温見や熊河等と同じように部落が解散するか、それまでにならなくとも半減するか、何れにしろ火の消えたようになる」と。其の理由とするところは、上地区石徹白川水系の部落は水没又は解散移住の運命にあり既に半減以上で、残つた村は袋地でないか、何の商売も成り立たない。農業は村を支えるには余りにも不十分である。山林は殆んど伐りつくした。何を食つて生活するのかと言うのである。誠にごもつともな説で、そのようになる可能性は十分にある。

これに対して或る人は「ダムが終つたあとは一層住みよい豊かな村になる心配御無用」と。理由は道路がよくなり鉄道もつく。さすれば冬の交通も開け、大野市へ三、四十分で行けるようになる。ダムも村の税源となり、観光資源ともなる。工場も設立される可能性もある。無ければ大野市へ職場を求めて通勤すればよい。之れも亦、極めてごもつともな御意見でそのようになることを願つてやまない。

或るいはまた、今にして将来の村造りの計画を立てねばと。或るいは又其の時は其の時の風が吹く、何もみみずが土を食いつくしたら何を食べようかと言つたような心配はするな、と。

以上はちまたの諸説であるが、要は豊かで住みよい和泉村の未来像を専任の公民館長でも置いて、更に深く広く数理に論拠を置いて画き、村民の意志を統一団結せしめる方向にむけてもらいたいものである。

ラジオ体操実況班来る！

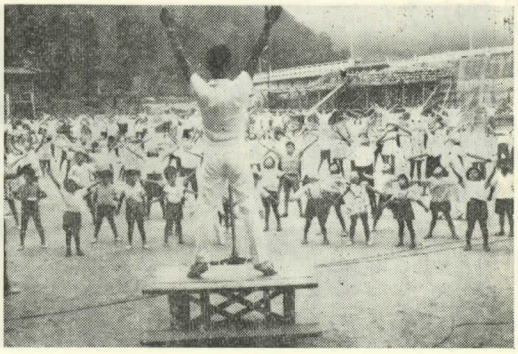
朝日小学校校庭から

午前六時三十分、行く先々で聞こえてくるラジオ体操の歌

新しいあさが来た

希望のあさが……

八月十日、まだ肌寒い朝日小学校の校庭にNHKラジオ体操実況班がやつてきた。朝日近辺の小中学生はもちろん、父兄の方々、さらに、後野分校の児童あわせて約二百人が参加、日頃の元気さの中に緊張さをまじえて行なわれた。



（写真は元気に体操中の一コマ）

季節風

過去・現在・未来

子供の頃、白山水力（―俗にこう言つた）の工事があつた。今思えば下山の堰堤工事と勝原の第一発電所工事である。確かではないがあれは大正十三、四年頃か、昔話だがその頃自動車など絵で見て名前位は知つていたが実物は見た事がない。ところがその自動車が、而かも乗用車が、水力のおえら方を乗せてこの朝日へやつて来た、老いも若きもこの珍奇な乗物見物に黒山（―というほど人もいなかつたが）更に角家に居る限りの者は集つて、物珍らしげになで、さすり、して打ち眺めていたことをおぼえている。

近くの工事場は下山だつたが、伝わる話は、酒と女とけんかの渦巻で血生臭いものばかりだつたように思う。「水力もの」と言えば村人は、いみきらい、敬遠主義で押し通し、今の悪質暴力団を見る目と同じで、いやな何年かを過して来たものだつた。

さて第二回の水力、即ち電源開発が今行われている。あれから四十年余たつて一世代を経過しているが、従業員諸氏の健全な態度は、村人に好感を与えているようである。勿論少数の不心得者はあるけれど、少くも現時点では良民を泣かせる昔の労務者風の者が極少であることは事実である。然し今は工事もその緒に着いたばかりであるが最後の一日までこの健全勤労態勢で進められんことを念願している。

凡そ平和維持は、謂わば、米・ソ・中の勢力バランスの調和が世界を平和に置いている如く、村内諸般の勢力が平衡を保つてこの健全態勢が維持されているものと考えられる。担当者の配慮が万全であることを切望している。

さて昭和四十三年に完成されるという開発事業も、更や角しているうちに早くも満水時期が来てしまうであろう去る八月二十日の福井新聞投書欄にもあつたが、水没する和泉文化の保存にもつと早く手を打てばよかつた、と、若い異郷人の意見が出ていた。これを肯定も否定もしないが、村の再建計画も既に県は観光開発と、スキー場建設を主軸に打出しているようである。奥地の大半を湖水にし、旧一村が皆滅したわけで、取残された者が、少くも従前より豊かな生活が営める社会に切り替えられる再建計画も、他から見て、もつと早くから着手すればなどと評され、且つ又、事実そのような結果にならぬよう何等かの手段はとられてはいると思うけれど、着手に時期を失せぬよう心掛けたいものである。過ぎ去つた月日はどのようにしても戻らないものであるから――

◇

○世界の貨幣　アメリカ＝ドル（三百六十円）、フランス＝フラン（一円）、フイリピン＝ペソ（百八十円）

（一面よりつづく）

大野市宝慶寺　坂下ふじ子
○角野前坂　猿谷　義晴
長野県中野市　小林　靖子
○坂井郡丸岡町　坪川　辰己
小谷堂　原　ミノル
○下山　西　忠尾
上大納　二谷はな子
○岐阜県吉城郡神岡町　坂上　博之
伊勢　山下　絹子
○下大納　松田　弘
名古屋市東区　安田　友子
○大野市篠座　与坂　紘
伊月　田中　礼子
○川合　末永　恵
長野県大野市　久保田朝子
○伊勢　幅下　良男
福島県伊達郡梁川町　田中　和子
○上大納　京谷　高史
〃　山口　豊子
○大野市横　山田直治郎
後野　米倉　治子
○面谷　轟　操
熊本県人吉市上林町　有田千代香

【死亡】

米　俵　池尾作次郎　六五才
大　谷　池田庄次郎　七〇才
大　谷　羽生楠緒子　三三才
鹿島建設　有園　政吉　五八才
〃　浜田　東　四〇才
〃　畑中　勝美　四一才

盛大にお盆納涼大会

一〇七発の花火打上げ

村商工会主催の一大ショウ

世紀の大事業が着手され、村もまた一大転換をなし昇龍和泉の大パノラマの建設に第一歩を印したこの時を記念して、祝賀納涼大会と銘打つて旧盆の三日間、和泉村商工会主催のもとに盛沢山な行事を行ないましたが、村民皆様のご期待に添い得たか？　と思つていますが、兎に角計画どおり無事終了しました事を喜んでおります。これはひとえに、朝日商店街の会員はもとより、村内外の様々な業体の皆様や個人の方々から御寄せ下さつた貴い御協力の賜であることを深く感謝申し上げる次第であります。

十四日、幕開けの行事は電発グランドの特設野外演芸場において三十数名の男女、我こそはと自慢のノド！に物言わせて覇を競い、審査員の諸先生方が慎重審査の結果、佐藤工業須藤栄佐男氏が特等に、以下五等までの入賞者に対し夫々賞金並に数々の賞品の授与があつて深まりゆく夜ふけを、すつかりお盆気分に盛りあげて、第一日を終えました。

十五日の午後は、青年相撲大会が行われ、県下の相撲界において常に国体に出場し活躍を続ける大野の岩渕氏や勝山の東京相撲で活躍した千代旭等の一行が技を競い盛会であつたが、地元を代表して、川口君の孤軍奮斗があつたことは一抹のさみしさを禁じ得ませんでした。

夜は村民の皆様にさぞや豪華華麗であろうと期待され、会員もこのことに主力を注いだ花火大会が夜空をきらびやかに色どり、四囲にこだましつつ一〇七発が次々と夜空に炸烈して村民の目を心ゆくまで楽しませた。

折柄川の濁水も流れず、旧盆位はと「ひれ」をのばしてはしやぎ廻つていた鮎子さんも余りにも急激に受けたショックが大きかつたせいか急に産気づき、この処お産のため日本海産院へ入院？準備で大わらわとの、想像もしなかつた、とんだ被害があつたとか？。

十六日は、ソフトボール大会と夜は仮装踊りコンクールが行なわれ、参加六チームのうち高校生を主力メンバーとする若手チームが大方の予想通りソフトボールに優勝した。

仮装コンクールには特賞がなく、南国情緒を展開して踊り廻つた上大納青年の四人組と下山青年のやくざ姿と鳥追いの二人組が一位を分け合つて授賞を終り、午後九時半全行事の幕となりました。

想い返せば取得もないような事であつたかもしれないが、少しでも明日の夫々の社会で話題をにぎわし、心の糧となり、建設への、そして、増産への見るべき部面があれば幸です。この企画、実行に当つた商工会として、これらの行事について熊野神社氏子、民踊保存会、その他いろいろな業体などの方々に心から御礼申し上げさせていただきます。

（和泉村商工会）

三年連続二種目優勝

岩城栄子さん（中竜）

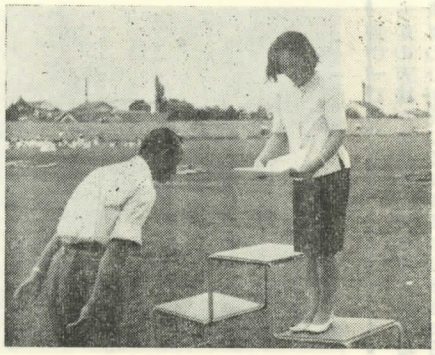
第十七回福井県民体育大会は、八月二十八日から三十日の三日間、福井市を主会場に、県下十八市町で、はなばなしく開催された。本村からも、大野郡選手団として、真新しい「和泉村体育協会旗」を先頭にソフトボール、軟式野球、軟式庭球、卓球、陸上に参加した。

各種目共通に、練習不足のためか、余りふるわなかつたが、卓球は南条に3対2で惜敗、期待のソフトボール（昨年準優勝）は、第一日は、強敵福井市を11対4でコールド勝ちし気をよくしたが、第二日目、鯖江市に8対6で惜しくも破れた。

しかし、陸上の岩城栄子さん（中竜鉱業所勤務）は、砲丸、円盤の二種目に出場、県下の強豪を相手に孤軍奮斗一昨年、昨年に続いて三ヵ年連続二種目優勝の輝かしい成績を上げて注目された。

各種目を通じていえる事は、①練習不足が目立つたこと、②特に混成チームの場合、チームワークが今少しほしいなど、であるが、素質としては、他の市、郡に少しも劣らないものであり来年こそ、早目に選手を定め、福井国体決定（昭和四十三年十月開催と決まる）第二年目にふさわしい選手団を送りたい。

また村内においても、各種大会を開催して、スポーツの振興を図り、村民の体位の向上につとめたい。（村体協）



（写真は、晴れの表彰を受ける岩城栄子さん）

かじか

心よい涼風と共に、いつしか初秋の香りが漂い始めた。ここ和泉の山奥では、一雨毎に暑さを忘れ、きれいに出そろつた稲の穂が、それを教えてくれる。▲いつまでも尾を引いた残雪、長かつた梅雨は農家の人の頭痛の種であつたが、その後の好天候で、もりもり挽回して今やゴール直前までたどりついた。もう後は台風という名の事故に合わないようにスパートするまでであるが、まずは無難な収穫を祈りたい。▲近頃とくに目につくことは、マイカー族の急増である。そもそも、原因は、自動車学校の設立によるもの。最もスクールバスで送り迎えしてくれるので、つい誘われてしまう。男女を問わず老いも若きも右へならえで、まさに自動車学校は花ざかりの昨今ではある。▲日頃子供達に「成績が悪い、もつと勉強しろ」とハッパをかける親達も、いざ、自分の車の検定ともなると、鎮静剤を服用しても上気して、そのあげくは不合格。ガックリきたところで先生になだめられて、また一頑張り。▲やつとのことで卒業すると、今度はカアチャンに「車買つてえー」と幼稚園の子供並。子供ならあやしてだませば、どうにかおさまるが、大きな子供はテコでも動がない。こんな時には必ず「酒は飲まない。飲んだら絶対運転しない」と約束する。▲ウソだとわかつていても、ついだまされて高いオモチャを買わされる。しばらくの間は約束した言葉が尊重される。が、日がたつにつれてだんだんそれがうすれていく。ここが盲点である。▲「交通事故」この四字の恐ろしさは、今更申しのべるまでもない。まかり間ちがえば一つしかない命まで失つてしまうし、それでなくても重傷は九〇パーセント確実であるおまけに後遺症が伴う。「車さえ買わなかつたら……」と嘆いても、それは後の祭りである。▲車の増加に伴う交通事故がボツボツ始まりかけている。免許を取つた以上、車を持ちたいのは自然である。だから車にあこがれるの

（四面につづく）

イギリス＝ポンド（千八円）、インド＝ルピー（七十五円六十銭）、ソ連＝ルーブル（四百円）

わし（ダンプカー）が一言

長野ダムサイド附近にて

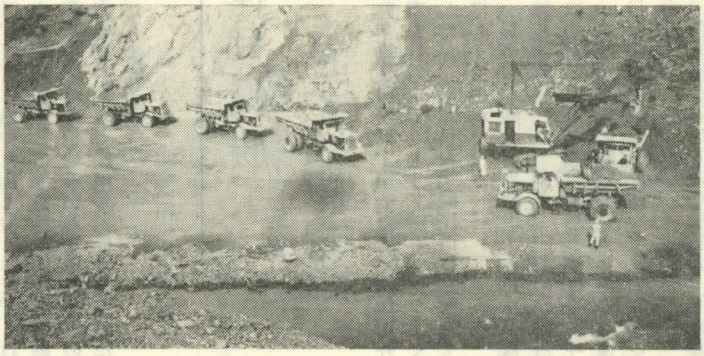
じいっと、小さいながらも大きいつもりの目をさらに開いてよく見ると、……いた、いた、蚤の孫のような人間が、一人、二人……。

ダンプカー、このちびの人間に曰く〝おっさん、いくら腕をくんでいばっていても、わしにやーかないっこないよ、わしの鼻の上をよく見てごらん、煙突が立ってるだろう、お前さん、この煙突と同じ位じゃないか、わしはな体重が二十二トンもあるんじゃよ、普通のトラックの五倍じゃよ、スコップでいえば、そうじゃな、ううん、その位じゃ……。

これでな、一台一台が毎日八時間働いてなあ、三ケ月で、山をこわしてなあ、この山を作ったんじゃよ、まあ、わしたちだけじゃないがなあ……。

わしのそばにいるパワーショベルさんの助けもあるけどな、このパワーショベルさん、大きな手をもつとるじゃろう、この手でなあ、グイっと土をつかんでなあ、わしにかずかせてくれるんじゃよ、わしは、山盛りかずいてなあ、向う山から、ここへ運んできているんじゃよ、今、ここは、山になってるが、去年までは、緑一色の広っぱでな、当時、わしも緑に囲まれて気持がよかったよ、この美しい所を、茶色一色にしなけりゃならんと思うと、泣けてなあ、……しかし、ダムというもの、お前さん方人間に、大変役立つものでな、わしや、人間が好きだから、やっぱり悲しいけど緑をこわすことにするよ、まだ仮工事の段階だけど、まあ、がんばってるんじゃよ、和泉村もわしの来た当時より、ずいぶん変ったな……。

来春また、わしの仲間がたくさんくるんじゃが、今度の奴は、まだまだでつかいよ、三十トンだからなあ、お前さん方、かわいそうにますますいばれなくなるなあ、しかし、これも、世のため、人のため、……このダムが出来上るまで、じっくりわしを使って下され、わしら、気はやさしくて力持ちだからなあ……。



写真は、長野ダムサイドで活躍中の二二トンダンプカーと、パワーショベル

（三面よりつづく）

も悪くない。が、万一事故にあって家族の中心を失ったり、相手にケガをさせては、それこそ悲劇である。▲今の所、際立った事故も見当らないが、だから前もって注意しておかねばならないのである。それには「正常な運転」この一語につきる。終始一貫して、それを守っていただきたい。

和泉論壇

宗教は自由だが？

参議院議員選挙全国区の開票結果で思うことだが、全国区はそのすべてが何らかの組織を利用しての立候補であるから、その支持分野がわかっておもしろい。

和泉村の開票結果をみても、注目すべきことがある。まず宗教団体の躍進がめざましく、いくつかの団体が軒並みに顔を並べている。だから本村にも色々な宗教団体があることが、その候補者の得票数で証明される。

そこで、その宗教の話であるが、近頃は、宗教の勧誘がさかんである。そのセールスマンの何と多いことか。保険や貯金の募集以上に熱の入れようである。勧誘の仕方も亦変っていておもしろい。なんでもその宗教に加入すると、病気がなおったり、チンバがなおったりするというのである。

そればかりか、進学する子供に「必ず試験に合格する」からと勧誘している。正直な子供はつい話にのってしまう。純真な子供の心にまで傷をつけるのはどうしても許せない。

宗教の自由は憲法で認められているが、わかり切ったウソまでついて勧誘する必要はないと思う。もっと他に何らかの方法があるはずである。信ずる人々の心が曲りくねっていたとしたら祭られる主もさぞかし顔が狭くなるだろうし、その教えにそむくことにもなろう。

私は信仰そのものが悪いというのではない。苦しいときの神頼みで、苦しい時には何かに頼りたいものである。何かに頼って安心して生きたい。その気持は骨の髄までしみ通ってわかるのだが、もう少し筋のとおったセールスをしてもらいたいし、私達もまた、人間の弱点につけいるような宗教には、いさゝかも動じないだけの信念を持ちたいものである。

○広報は、とじて保存しましょう。

あとがき

昔の話に、春の田植時期になると、「太平の馬は足が早いし、物音にもおどろかんし、ええ馬じゃ」と、五月馬の話に花咲き。夏になると、青草を家の入口せまし、と何十束もの盆草（お盆中馬の食糧）を刈返んで、自慢顔しまた秋の取入は当然の事乍ら、十二月ともなり、あっちこっちで、報恩講の呼び合い頃ともなれば、もっぱら「次平の仏檀は拝みよい」、「三郎兵ェの仏檀の金は穴馬じゃ、おそらく他になかろう」などと、仏檀の良し悪しを論じあうことが多かった。なずけて「ふかぐつあんじん」（ふかぐつをはく時―雪が降って農閑期―が、仏事の盛んな時期）という。必要な事物が、時の話題をさらう意で、「冬には夏の準備、夏には冬の用意をせよ」という「不断の心構えが大事」である「いましめ」をも意味する。

さて、今月は、村会議員の改選である。だいぶん選挙熱が高まって来たようではあるが、「ダム建設にからんで新しい村づくり」は、今期当選した新議員の双肩にかかっているといえよう「ふかぐつあんじん」的議員論評もさること乍ら、更に前進して、村の将来をみつめた、村会議員選出に、有権者の心構えをもっていただきたいものではある。

訂正（おわび）

八月号（八七号）一頁二段左から八行目「小村先生」は、「小林先生」に、同四段右一行目「小村健太郎」は、「小林健太郎」に訂正。